

オールドニュータウングリーンズローモビリティ実装プロジェクト

応募様式A

(三田市モビリティサービス実証推進協議会)

事業の基礎情報

実施主体	三田市モビリティサービス実証推進協議会（以下、協議会）
事業実施地域	三田市（武庫が丘地区）
共創の類型	☒ 官民共創 ・ ☒ 交通事業者間共創 ・ ☒ 他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉 ・ 商業・農業 ・ エネルギー・環境 ・ 観光・まちづくり ・ その他（健康増進）
共創パートナー	三田市・株式会社北摂コミュニティ開発センター・神姫バス株式会社・神戸電鉄株式会社・ 武庫小校区まちづくり連絡協議会・三田市社会福祉協議会
運行形態	道路運送法第78条第1項2号
運行主体	三田市モビリティサービス実証推進協議会 （運行：武庫小校区まちづくり連絡協議会／安全指導・車両管理：神姫バス株式会社）

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

武庫が丘地区は、人口減少及び急激な高齢化が進展しているオールドニュータウンである。通勤・通学需要の低下等により公共交通サービスが低下しつつあることに加え、まちの構造上、自宅からバス停まで高低差がありアクセスしづらい状況である。高齢化の進展による運転免許返納者の更なる増や徒歩可能距離の短縮が推測されるなか「移動手段の確保」は地域の問題となっている。地域住民の外出頻度の低下は、まちの移動総量の減少につながり「まちの活力低下」が懸念されている。新たな移動手段であるグリーンズローモビリティ（以下、グリスロ）を導入し、自転車歩行者専用道路を走行する等地域の回遊性を高めることにより移動総量の低下を防ぎ、さらに他の公共交通（バスや鉄道）や異分野（商業施設等）とを有機的に繋げていくことにより、交通を舞台としたまちづくりの共創を推進し「まちの活性化」を図る。

（事業の概要）

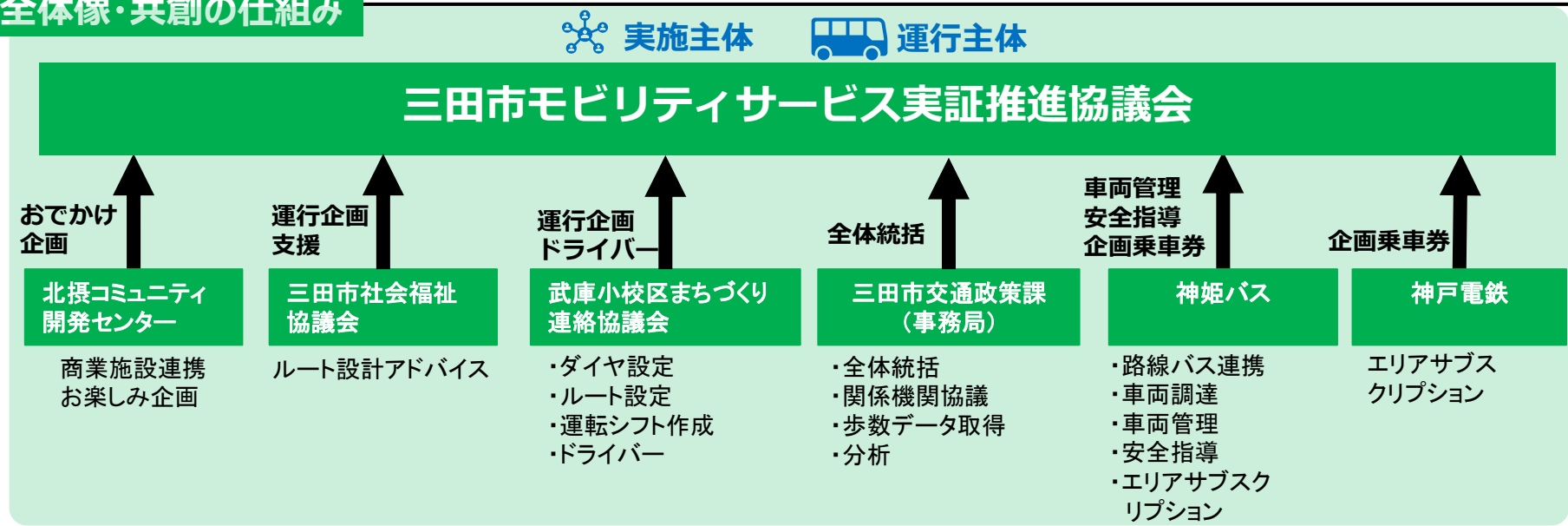
協議会によるグリスロの運行により「地域」と「商業施設や鉄道駅等の利便施設」を繋ぐ。運賃は有償化（定期券）とし、神姫バスのアプリを活用し電子化された定期券も提供する。地域内MaaS化の実装を見据え、同アプリを活用しグリスロ、神姫バス、神戸電鉄が協調してシームレスなエリアサブスクリプションも提供することにより、他モードとの連携を実施。また運行ルート設計等における福祉との連携、外出促進企画による商業施設と連携、実証実験前後の歩数等のデータを取得し住民の活動量を可視化するなど健康増進との連携を図る。

オールドニュータウングリーンスローモビリティ実装プロジェクト

応募様式A

(三田市モビリティサービス実証推進協議会)

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

- (行政) 三田市：共創プラットフォーム事務局・全体統括・歩数データ利活用【健康増進連携】
- (商業施設) 北摂コミュニティ開発センター：商業施設と連携した外出促進企画の実施【商業連携】
- (交通業者) 神姫バス：事業者視点による安全運転指導及び車両選定・エリアサブスクリプションの実施
神戸電鉄：エリアサブスクリプションの実施【交通事業者連携】
- (地域) まちづくり協議会：地域実情に応じた運行等（ドライバー・運行企画・運行管理・シフト作成等）【地域・まちづくり連携】
- (福祉) 社会福祉協議会：地域実情を踏まえたルート設計アドバイス【福祉連携】

(実証事業により見込まれる効果)

グリスロ（新たな移動手段）を導入し、地域の回遊性が高まることにより、まちづくり「誰もが気軽に移動できる」自然に健康になれる環境が推進される。また、まちの移動総量が増加することで、公共交通の確保維持や多様な主体と有機的な繋がりにより、まちの活性化につながる。参考指標【利用者数】【実証前後の歩数データ】【協賛件数：関連団体増によるまちづくり基盤の醸成】

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
グリスロ運行					●					
データ取得（万歩計）				●			●			
協議会		●		●		●		●		
実証企画・検討	●			●						
関係者協議	●			●						
準備（車両調達・設定）				●						
おたのしみ企画					●					
調査分析				●					●	
協賛金集め		●				●				
周知				●		●				

(補助事業実施後の予定)

収入面

持続的な取組みを進めていくうえで、①運賃収入の確保 ②協賛金の獲得 ③行政支援 を検討していく。

①運賃収入の確保：定額サブスクリプション等料金体系を整理し、実装に向けた検証を継続する。

②協賛金の獲得：地域の人・店舗・企業に留まらず、地域外からも協賛してもらえるメニューを検討し、地域と一体となった取組みの応援サポーターを増やしていく。

③行政支援：上記①②の状況を踏まえて、行政としての支援範囲を整理し、地域で持続的に継続できる支援により後押しする。

併せて、下記についても検証を継続していく。

①利用者獲得・・・お試し乗車促進による新規利用者の獲得・ルート見直し及び利用者ヒアリングによる利便性向上・地域イベント連携による認知度向上

②乗車券等販売場所の拡大・・・身近な場所で乗車券等を購入できるよう検討

③地域の担い手確保・・・ボランティア・地域団体・企業協力によるドライバーの確保・問合せ対応等事務体制の確立